

# 防災ボランティア活動検討会からのメッセージ

全国の皆さん

今回の大災害で亡くなられた大勢の方々のご遺族の皆さま、ご縁のある方々に心からお悔やみを申し上げます。

また、現在も昼夜を問わず、命がけで活動しておられる、警察、消防、自衛隊、海上保安庁、医療関係者の皆さま、政府や自治体の皆さま、ライフライン関係の皆さま、現地の様子を伝えるマスコミの皆さま等々に対して、心から感謝を申し上げます。

私たちの想いは、先に「東日本大震災支援全国ネットワーク」の皆さまが出されたメッセージに共感するものであります。

私たちは、阪神・淡路大震災の前後、活動の経緯や開始時期、内容に差はありますが、被災地の内外でのボランティア活動や、平常時の防災普及など様々な展開をコツコツと積み重ねて来ました。

そんな中、私たちは、平成16年に全国で多発した豪雨災害をきっかけに、政府の皆さんや有識者の方々とともに、私たちが現場で考えている知恵や課題、悩みについて、集まり、検討する場として、平成17年にできた「防災ボランティア活動検討会（内閣府）」に参加し、以来6年間、検討会や平素からのメーリングリストなどを通じて、災害ボランティア活動に関する安全衛生や広域ボランティア活動など様々な課題や知恵について議論を重ねてきました。

この場で検討した内容のうち「防災ボランティア活動の情報・ヒント集」など発表したものもいくつかはありますが、何よりも私たちは、検討会を重ねるにつれ、行政や団体やNPOや研究者などの立場を超えて、真摯に顔の見える関係を築いてきました。

今回の未曾有の災害に際し、これから本格的な災害ボランティア活動が日本を挙げて展開されることになるでしょう。

私たちは、私たちが今まで培ってきた知識、経験に加え、地元での活動や検討会を通じてコツコツ積み重ねてきた顔の見える関係、全てを使って、全国の皆さんとともに、被災された方々のために頑張っていきます。

全国の皆さん！

私たち一人一人は、小さな燈（ともしび）しか灯すことができませんが、私たちが協力すれば、小さな燈（ともしび）であっても、すみずみまで光を照らすことができます。

被災地での活動はもちろん、募金、避難の受け入れ、避難してこられた方々への寄り添いなど、私たちの持つ小さな燈（ともしび）を、皆さんとあらゆる場で灯そうではありませんか。

平成 23 年 3 月 20 日

内閣府防災ボランティア活動検討会 参加者一同